

エコたま グリーン NEWS



多摩市民環境会議機関紙 第144号(通巻第204号)
2015年2月19日発行 発行人:清水武志朗 編集人:
井上ひさかず 〒206-0025 多摩市永山3-9 東永山
複合施設301 (事務局員は常駐していません)
e-mail qqh43tdd@train.ocn.ne.jp
URL www.ecomeetingtama.jp

生ごみサポーターのスキルアップ研修会



多摩市内におよそ30名いる「生ごみリサイクルサポーター」のスキルアップ研修として2月3日、ダンボールコンポストの先進事例の紹介と、NPO あした

川崎の経験豊富な人たちの指導で や共働企画製のリニューアルコンポストの紹介、その配布などが行われた。

場所はベルブ永山の講座室。ここには生ごみサポーター17名と一般の公募市民10名も参加し、熱心に話を聞いた。

まず川崎市麻生区で活動する「環境を考え行動する会」の女性3人が代わる代わる講師になり、自分たちがなぜダンボールコンポストを始めたか、などを理解しやすく語ってくれた。

きっかけは深夜のニュース番組で九州・福岡の団体がダンボールコンポストをやっているのを知り、「これだ!」と共感。福岡まで赴いてやり方を伝授されたのだという。この積極性がのちの成功に結びついたので

だろう。いまでは、できた堆肥を使って生き生きとした花をつくり、道路交差点の角などに花壇をつくって人々に平和と安どの心を届けている。

彼女らの話によると、ダンボ

ールの大きさもぴったりのサイズがあり、大きくても小さくてもいけないのだそう。生ごみを分解する基材にはココピートと呼ぶココナツやしの殻ともみ殻燻炭を使っており、燻炭が10kgにココピートが15kgの計25kgを使う。この相性が絶妙なのだそう。

ハード面のノウハウとしては、基材をかき回しているうちに、ダンボールの底を傷つけてしまいがちなので、底を二重にする。底部の風通しのために、下に苗ポットなどを逆にした台を置き、その上にダンボールを据えること。ダンボールの板と板の間がちょっとでもあいているとアメリカミズアブなどが針を差し込んで卵を産んでしまうので、紙テ

←ダンボちゃんのセット



ープなどでしっかりとすき間をふさぐこと、などが話された。

さて、多摩市産(あしたや)のダンボールコンポスト(ダンボちゃん)も最近リニューアルが行われ、これまでのノウハウ1回目の投入、ばらけているが活かされた新製品になっている。AとBの2タイプがあり、Aはどちらかというと堆肥効果型、Bは消臭効果型。内容は基材の配合の違いだ。Aは牛糞堆肥8ℓ、そば殻燻炭8ℓ、土壌改良材6ℓの計6.65kg。Bは牛糞堆肥4ℓ、そば殻燻炭8ℓ、竹チップ10ℓの計6.65kg。牛糞を多く使うか、竹チップを多く使うかで使用目的が分かれるようになっている。

キットとしては、新型ダンボール箱、基材2種類、ゆうきマン(発酵促進剤)、温度計、箱の上からかけるTシャツ改造のカバーなどで価格は2500円。このうち市から約半額の1200円が補助されるので、個人の出費としては1300円で手に入る。これは消費税の前と後でも変わらない価格だ。

研修会のあと、希望者にAかBのどちらかが提供されたので、わたしはBタイプを受け取って帰宅。ただ、いろいろ面倒なことがあるし、生ごみそのものの排出量が少ないので、帰宅の1週間後から投入を始めた。

ただ、ここで失敗したなどと思ったのは、川崎の人が基材の真ん中に穴を掘って生ごみを入れると聞いていたのに、全般的にばらまいてしまったことだ。このため、生ごみを埋めにくく、あちこちにバナナの皮や卵のかけらなどが顔を出し、なかなか埋めにくいこと。

それから10日ほどあとの2回目の投入では、真ん中に穴を掘って周りから埋めるようにしたが、今度はゆうきマンを振りかけるのを忘れてしまった。そのうえに基材の温度がほとんど上がっている様子がない。

川崎の人の話があまりにもうまくいく例だったのですっかり乗せられてしまったよ

2回目の投入、中心に寄せうだが、仕方がない、このコンポストによる生ごみリサイクルを始めたことはまちがないので、今後失敗しようが成功しようが経過をお伝えしていくことにする。

(I記) ●あしたや共働企画: ☎042-372-3690(担当・長尾)



阿部市長、永尾副市長との懇談会

当会議とEARTH VISION多摩実行委員会と阿部裕行市長、永尾俊文副市長との懇談会が2月17日に市役所応接室で行われた。当会議からは近づいた多摩エコ・フェスタの状況、市長/副市長への出席要請と水辺の楽校の活動状況などが報告された。またEARTH VISION実行委員会は21日の上映会の準備状況や進行の内容などを説明した。

中央左が市長、その右が副市長

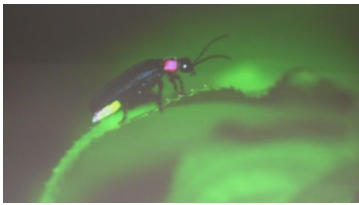
阿部市長からは、多摩市において環境面に携わる人口が多いこと。ただ多摩センター駅周辺などでは一見きれいに見え



ても、実際にはごみが多いと新住民などに指摘されている話が披露された。多摩センター周辺は実際にそのとおりで、こちらからは「団地などでは『自分たちのもの』といった考え方で競ってきれいにしているが、ああいった駅周辺というのはそのように考える団体や人などがいないのではないかと返事をした。

また、浅井副代表からは、月に1回行っている「街路清掃」の話が出て、特定の歩道に吸い殻のポイ捨てが多いことや、同じ場所に必ずワンカップ酒の瓶が捨てられていることなどを紹介。平成24年10月に施行された「多摩市まちの環境美化条例」を知らない人が多いことなども指摘し、今後とも多摩市をきれいなまちに保っていくことに努力することで一致した。

多摩動物公園におけるホタルの取り組み



2月7日に東京都立埋蔵文化財調査センターで行われた「第2回多摩丘陵里山連絡会」では、多摩動物公園の教育普及課昆虫園飼育展示係主事の杉田務さんから「多摩動物園でのホタルの取り組み」が発表されたので、配布資料から再現してみることにする。

多摩動物公園では1973年からホタル舎の水路で「ホタル観察会」を開催してきたが、様々な弊害により年々、羽化数が減少し、2009年に観察会を中止した。

その後、ホタル展示の再検討を行い、園内の里山環境再整備の一環として、園内(ユキヒョウ舎前の流れ)の環境を整備し、近隣地域に生息し続けてきたゲンジボタルを再導入して、定着を目指してきた。そして2014年6月にはユキヒョウ舎前の流れで初となる観察会を開催するまでに至った。

ゲンジボタル(以下ホタル)は、発光間隔の違いによる生態型の分布と地域集団間での遺伝的変異と分化が知られている。そのため、人為的に他地域のホタルを移入することは、地域固有の生態系を壊してしまう危険性がある。

多摩動物公園では、過去に他地域のホタルを飼育してきたこともあるが、2011年に近隣地域のホタルを導入し、これに並行してユキヒョウ前の流れの整備を行ってきた。また、他の地域のホタルと交雑しないよう室内で累代飼育していくために「生態水槽飼育」に取り組み、系統維持も行っている。

ユキヒョウ前の流れには、2012年3月に室内で飼育した終齢幼虫を120匹前後放流した。それ以降、毎年7月に室内で孵化したばかりの幼虫を500~1000匹放流して羽化が観測できている。

さらに産卵も毎年確認でき、ホタルが生息できる環境が整ってきている。



おもな環境整備内容は、流れづくり・植生管理・生物調査などだ。どの作業を進めるときでも「一度にすべてを変えない。

少しずつ作業を行う。生き物の様子を見ながら取り組む」ことを原則として「ホテルだけのことを考えずに、多種多様な生物が生息できる環境づくり」という考えを大切にしている。

一ノ宮用水改修後の水生生物の調査報告(上)

西田一也(東京農工大学非常勤講師)

1. 目的

2014年11月16日(日)午後に一ノ宮用水において、1)当該用水に生息する水生生物相の把握、2)これまでに行われた水路改修が生き物と水路環境に与える影響の把握を目的に、14名によって調査を行った。今回は、特に橋下に造成した深みの利用状況の把握が主要な調査項目である。当該用水は日野市落川の程久保川右岸から揚水機によって取水され、多摩市関戸で大栗川左岸に排水される延長約2kmの用排兼用の農業水路である。



2. 調査方法 (1) 水生生物の採集

1)2011年~12年に改修された2面張り区間(I-1)、2014年に改修された区間約40mのうち下流側の2)橋下区間(I-2)と3)木杭護岸区間(I-3)、4)2008~09年に改修された3面張り区間(I-4)の計4カ所において、これまで東京農工大学で行われてきた多摩地域での他の農業水路の調査を参考に調査を行った。I-2では、手網またはサデ網3名程度により10分間程度の採集を行った。採集した生き物は種類を同定し、魚類については全長、体長を記録したのち採集地点に放流した。なお、これまでの調査実施状況を表2に示す。

表1 調査区間の改修年月と改修工法

地点番号	改修年月日	改修工法	区間長
I-1	2011年12月1日~ 2012年3月12日	2面コンクリート張り護岸 礫が敷かれている。キショ ウブを植栽	20m
I-2	2014年1月10日~ 3月28日	橋下を30cmほど掘り下げて2.1m 深みを造成。深みの側面及び 底面はコンクリート	
I-3	2014年1月10日~ 3月28日	左岸：木杭護岸、右岸：コン クリート護岸。礫が敷かれている	20m
I-4	2008年12月9日~ 2009年3月13日	3面コンクリート護岸。礫 が敷かれている	20m

(2) 環境条件の測定 →表2

改修された区間において改修工法の種類等を記録し、写真撮影を行った。12時40分頃に水

	2013年 (改修前)		2014年 (改修後)	
	11月16日	4月26日	9月27日	11月16日
I-1		✓	✓	✓
I-2		✓	✓	✓
I-3	✓	✓	✓	✓
I-4		✓	✓	✓

温と水質(pH、DO、EC)をI-3で測定した。I-1、I-3、I-4では、採集と合わせて5mおきに水路幅を4分割した3地点(計15地点)において水深と、6割水深の流速を測定した。(以下次号につづく)